

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちあふるスクール枚方		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラミング的思考を養う取り組みへの要望が多く、その期待に応える活動内容の提案ができています。 PCやタブレットを活用して、プログラミング学習に取り組みプログラミング的思考を養う課題や取り組み内容の調整ができています。	個別ブースを一人ずつ設けることで、集中して取り組める環境をつくっている。	通所後にお子様の興味の持てそうなことや好きなことを深く知り、活動内容へ反映できるようにします。
2	早くからIT機器にふれることで就労に向けた支援につながることができています。 一人一台のPCを使い、ITにふれる環境で支援ができています。 それぞれのお子様の特性によって、提案内容を変えながら支援ができています。	季節の行事やイベント等を開催して、交流の機会を広げたり取り組み意欲向上につなげている。 交流を通してコミュニケーション力の向上につなげている。	新しいツール等を積極的に取り入れたり、先に指導員が試して支援に活用できるものを探します。
3	支援開始前や支援後に、事業所内で共有を行ってより良い支援につなげている。 毎日共有の時間を設けていて、児童発達支援管理責任者を中心に全指導員で振り返りや事前共有を行っている。	スケジュールボードを活用して、先の見通しをたてて行動できるように支援している。	情報共有するだけでなく、共有した情報を支援につなげるにはどうしたらいいか各個人が探究します。 各個人から事業所全体への共有還元も行います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流の機会の場の提供ができていない。	直接支援に対する要望のほうが多いため、支援内容の充実を優先していました。そのため保護者様が参加する交流の場のご提案ができていませんでした。	保護者様の要望を確認して、交流の機会を望む方に対して保護者様同士の交流の場を提供できるようにします。
2	地域の交流の場に、あまり参加できていない。	平日は利用時間等で調整が難しい部分があり土日祝で日時調整をしているため、月一回程度の参加になっています。	今後、利用者様の意見を聞くなど調整しながら参加の頻度を増やしていけるようにいたします。
3	障がいのない子どもと一緒に活動する機会が少ない。	地域の交流の場に参加するのと同様に、どのような場に参加して調整するのか決める必要があります。	今後、機会を増やしていけるようにいたします。